

# 園芸タイムリー情報

## 《9月上・中旬版》

令和3年 9月 3日発行 第8号  
 上川農業改良普及センター  
 Tel: 0166-84-2017 Fax: 0166-84-2009  
 E-mail: asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage: http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

### 全作物共通



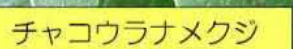
天気は数日の周期で変わり、平均気温はほぼ平年並で、降水量は少ない状態が続く見込みです。

- ①ハウスは、日中の急激な昇温や夜温の低下への対応が必要です。気象条件や生育に合わせたかん水や肥培管理、適温・適湿の確保等、生育環境を整えましょう。
- ②強風や大雨に備えて、防風網の点検、ハウスの修理や補強、排水溝の掘り下げなど防災環境を整えましょう。
- ③病害虫の発生に引き続き注意し、適切な薬剤防除を行いましょ。薬剤防除の時間が遅くなると、薬液の乾きが不十分となるため、薬液が乾く時間帯に散布を行いましょ。
- ④余裕を持った作業計画を立て、健康状態を確認して作業を開始しましょ。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫生理障害名	 	
キスジノミハムシ	こまつな葉部食害	
発生状況	ラデッシュ根部食害	
中～多発生		
発生時期	キスジノミハムシ成虫 (体長2～3mm)	
5月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。</li> <li>5月下旬から成虫の発生が見られる。</li> <li>8月以降は再び被害が増加しているため注意する。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●成虫期間：1～4ヵ月</li> <li>●卵期間：5～7日</li> <li>●幼虫期間：10～20日</li> <li>●蛹期間：3～15日</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。</li> <li>土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。</li> <li>ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。</li> </ul>		
<防除の一例> こまつな ●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回 チンゲンサイ ●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回 チンゲンサイ・ターサイ・みすな・こまつな ●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫生理障害名	 	
コナガ	幼虫による葉の被害	
発生状況		
少～中発生		
発生時期	コナガ幼虫	
5月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。</li> <li>比布町では8月の成虫の飛来数が平年よりやや少ない。</li> <li>8月下旬は幼虫による被害は減少している。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場内外の雑草をこまめに除草する。</li> <li>防虫ネット(目合い1.0mm)を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。</li> <li>ジアミド系(プレバソフロアブル5等)への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。</li> </ul>		
<防除の一例> ●プレオフロアブル(品目ごとに登録内容が異なるので注意) こまつな・みすな: 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 チンゲンサイ・ターサイ: 1,000倍 収穫7日前まで 2回以内		

作物名	あぶらな科野菜など葉菜類全般	
病害虫生理障害名		
ナメクジ類カタツムリ類	ウスカワマイマイ	
発生状況		
少発生		
発生時期	チャコウラナメクジ	
4月中旬～		

発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所を好み、地中で越冬する。</li> <li>葉の食害の他、本体やフンの混入が問題となっている。</li> <li>雨天時や夜間は活発に活動する。</li> <li>例年は9月以降に被害が増加するため、注意が必要である。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。</li> <li>ハウス内外をこまめに除草する。</li> <li>スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。</li> </ul>	
<防除の一例> ●スラゴ 1～5g/m <sup>2</sup> (3.3～16.5g/坪) 発生時	

作物名	メロン・きゅうり	
病虫害生理障害名	写真：すいか(左)ときゅうり(下)に発生したアブラムシと被害葉	
アブラムシ類		
発生状況	中発生	
発生時期	6月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。</li> <li>ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。</li> <li>薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> </ul> <p>〈防除の一例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ウララDF きゅうり 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 メロン 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●アディオン乳剤 きゅうり 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 メロン 2,000～3,000倍 収穫前日まで 5回以内</li> </ul>		

作物名	メロン・きゅうり	
病虫害生理障害名	うどんこ病	
発生状況	中～多発生	
発生時期	7月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。</li> <li>例年、生育後半に発生が多くなるが、本年の乾燥条件により発生が早まった。</li> <li>過繁茂になると発生しやすい。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場を乾燥させすぎない。</li> <li>被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。</li> </ul> <p>〈防除の一例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ポリベリン水和剤 メロン：1,500～2,000倍 収穫前日まで 5回以内 きゅうり：1,000～2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●ベルコート水和剤 メロン：1,000倍 収穫前日まで 5回以内 きゅうり：2,000～4,000倍 収穫前日まで 7回以内</li> </ul>		

作物名	きぬさやえんどう	
病虫害生理障害名	うどんこ病	
発生状況	少発生	
発生時期	8月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉、茎、莢に発生する。収穫期頃になってから被害が急増する。</li> <li>下葉から発病し、はじめ灰白色の斑点を生じ、その後うどん粉をまぶしたように白色粉状（菌糸と分生子）のものに覆われる。</li> <li>莢では、褐色のしみ状の斑点となるので、商品価値が劣る。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>茎葉が過繁茂になった部分は分枝を整理し、風通しを良くする。</li> <li>適期に収穫と、収穫遅れ莢の早期摘み取りで、草勢を維持する。また、収穫開始後は3～7日に1回程度追肥を行う。</li> <li>発病初期に殺菌剤を散布し、被害の拡大を防ぐ。</li> <li>被害茎葉や収穫後の残さは、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul> <p>〈防除の一例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ロブラール水和剤 1,500倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●ゲッター水和剤 1,500倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●トリフミン水和剤 3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内</li> </ul>		

作物名	きぬさやえんどう	
病虫害生理障害名	ツマグロアオカスミカメ	
発生状況	少発生	
発生時期	8月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫の発生が確認されている（体長4～6mm程度）。</li> <li>作物や周辺雑草に生息し、産卵と発生を繰り返す。</li> <li>成虫（飛翔する）、幼虫共に生長点や展開葉などやわらかい部位を針のような口で吸汁する。</li> <li>被害部分の生長とともに、陥没部分の傷が広がり、葉に突起症状や奇形が見られ、生長点では奇形や芯どまりが発生する。</li> <li>9月以降成虫が産卵した卵のほとんどは、ふ化せず越冬する。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場内外の雑草も生息地となるため、こまめに除草する。</li> <li>防虫ネット設置による飛び込み防止、黄色粘着シート設置による発生予察を行い、早期発見・発生初期の殺虫剤散布を行う。</li> <li>翌年の発生密度を低減するため、収穫後の残さをほ場外に持ち出す。</li> <li>収穫前日まで使用できる登録薬剤は限られるため、収穫開始後は、ハモグリバエ類、アザミウマ類と同時防除を行う。</li> </ul> <p>〈防除の一例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●マラソン乳剤 1,000倍 収穫7日前まで 3回以内</li> </ul>		

作物名	さやいんげん
病虫害 生理障害名	 <p>葉裏に寄生しているオンシツコナジラミ</p>
オンシツコナジラミ	
発生状況	
少発生	
発生時期	
8月下旬～	
<b>発生の状況・要因</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温で推移したため例年より、発生が早く見られている。</li> <li>・成虫は上位の新葉葉裏に群生し、吸汁して盛んに産卵する。</li> <li>・成虫、幼虫は口針を植物組織に突き刺して吸汁するとともに、多量の甘露を排泄するため、葉や果実に“すす病”を併発する。</li> </ul>	
<b>対策</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場内外の雑草も生息地となるため、こまめに除草する。</li> <li>・多発時は、成虫、幼虫、蛹、卵が混在し防除が困難になる。</li> <li>・作物の上葉を軽く叩くと白い成虫が飛び立つので発生の有無がわかるので、ほ場をよく観察し早期防除に努める。</li> <li>・農薬散布は、成虫の活動が鈍る夕方か早朝が望ましい。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul>	

作物名	トマト・ミニトマト
病虫害 生理障害名	 <p>がくから感染した発病果実</p> <p>葉の病斑とかび</p>
灰色かび病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
—	
<b>発生の状況・要因</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の高温乾燥により、発生は少なかったが、低温多湿時に発生が増加するため、今後は注意が必要である。</li> <li>・夜温が低下し、昼夜の温度差によって結露が生じた果実等で発生するが多い。</li> </ul>	
<b>対策</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の温度確保により昼夜の温度差を小さくすると共に、日の出後は短時間でも換気を行い湿度を低下させる。</li> <li>・発生状況に応じて、これまで使用した薬剤と異なる系統（作用機作）の薬剤による防除を実施する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで トマト 4回以内、ミニトマト 2回以内</li> <li>●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内</li> <li>●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul>	

作物名	トマト・ミニトマト
病虫害 生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
8月下旬～	
<b>発生の状況・要因</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部ほ場で初発が確認されている。</li> <li>・葉の表面にうどんこを振りかけたようにかびが密生している。</li> <li>・発生が増加すると果柄・へたなどにも発生する。</li> <li>・20～25℃の乾燥条件で発生しやすい。</li> </ul>	
<b>対策</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場を乾燥させすぎない。</li> <li>・初発が確認されたほ場は早めに薬剤散布を実施する。</li> <li>・被害葉や果実は摘除し、残さはほ場外へ搬出する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで トマト 4回以内、ミニトマト 2回以内</li> <li>●アフェットフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●ハーモメイト水溶剤 800～1,000倍 収穫前日まで —</li> </ul>	

作物名	トマト・ミニトマト
病虫害 生理障害名	 <p>果実での被害（さび症状）</p> <p>褐変した莖葉</p>
トマトサビダニ	
発生状況	
少発生	
発生時期	
8月上旬～	
<b>発生の状況・要因</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部ほ場で発生が見られている。</li> <li>・初めはハウス内の一部の株の下葉で発生し、徐々に上位の莖葉や隣接する株に広がる。</li> <li>・莖がほこりを被って汚れたように褐変する。葉は先端から黄変し、やがて褐変し落葉する。果実はくすんだようなさび症状となる。</li> <li>・高温乾燥時に発生が増加する。</li> </ul>	
<b>対策</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生を見逃さずに薬剤防除を実施する。</li> <li>・発生株周辺の作業を最後に行う等して、隣接しない株へ作業者の衣服等を介して広がることを防ぐ</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内</li> <li>●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●コロマイト乳剤 1,500倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回</li> </ul>	

作物名	パセリ													
病虫害生理障害名	かびに覆われた葉													
うどんこ病														
発生状況	少発生													
発生時期	8月上旬～													
発生状況・要因														
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。</li> <li>ハウス内温度28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。</li> <li>8月は発生が少なく推移したが、今後は発生が増加するので注意が必要である。</li> </ul>														
対策														
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場を乾燥させすぎない。</li> <li>発生前から予防的に薬剤散布を実施する。</li> <li>発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt; (発生前 7日～10日間隔で散布)</p> <table border="0"> <tr> <td>●クリーンカップ</td> <td>1,000～2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>●クムラス</td> <td>500～1,000倍</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>(発生初期)</p> <table border="0"> <tr> <td>●アフェットフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table>			●クリーンカップ	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—	●クムラス	500～1,000倍	—	—	●アフェットフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
●クリーンカップ	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—											
●クムラス	500～1,000倍	—	—											
●アフェットフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内											

作物名	ピーマン																		
病虫害生理障害名	へたの褐変																		
アザミウマ類																			
発生状況	少発生																		
発生時期	6月上旬～																		
発生状況・要因																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマが混在して発生しており、体色は種類や幼虫、成虫、雌雄により異なる。</li> <li>主に花に寄生しており、はたき落としにより1～2mmの黄色や黒の細長い微小な虫が素早く歩き回る様子が見られた。</li> <li>へた等の褐変症状や果実の引き攣れ症状が見られている。</li> </ul>																			
対策																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>発生状況に応じて他害虫との同時防除を実施する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt; タバコガ類やオオタバコガとの同時防除</p> <table border="0"> <tr> <td>●ブレオフロアブル</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●スピノエース顆粒水和剤</td> <td>5,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> <p>オオタバコガ、ハダニ類との同時防除</p> <table border="0"> <tr> <td>●コテツフロアブル</td> <td>ミカンキイロアザミウマ</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> <p>アブラムシ類・ハダニ類との同時防除</p> <table border="0"> <tr> <td>●モベントフロアブル (遅効的なので多発時には他剤と併用する)</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table>			●ブレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	●スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫前日まで	2回以内	●コテツフロアブル	ミカンキイロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	●モベントフロアブル (遅効的なので多発時には他剤と併用する)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
●ブレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内																
●スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫前日まで	2回以内																
●コテツフロアブル	ミカンキイロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで	2回以内															
●モベントフロアブル (遅効的なので多発時には他剤と併用する)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内																

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん																	
病虫害生理障害名	ワタアブラムシ																	
アブラムシ類																		
発生状況	中発生																	
発生時期	8月下旬～																	
発生状況・要因																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ワタアブラムシの飛び込みにより、葉裏に有翅虫や産み落とされた幼虫が見られる。今後、発生が増加すると予想される。</li> <li>ワタアブラムシの体色は黒、緑、黄色等で、葉裏に多く見られる。</li> <li>増殖すると寄生した葉の下の葉上やマルチにべたべたした甘露や白い抜け殻が見られる。</li> </ul>																		
対策																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>多発すると防除が困難になるので、発生を見逃さないよう努める。</li> <li>生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、丁寧に行う。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt; ピーマン</p> <table border="0"> <tr> <td>●モスピランジェット</td> <td>50g/400? (床200m<sup>2</sup>×高さ2m)</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●トランスフォームフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> <p>ししとう・なんばん</p> <table border="0"> <tr> <td>●スタークル顆粒水溶剤</td> <td>3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●粘着くん液剤</td> <td>100倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>回数制限無</td> </tr> </table>			●モスピランジェット	50g/400? (床200m <sup>2</sup> ×高さ2m)	収穫前日まで	2回以内	●トランスフォームフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	●スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫前日まで	2回以内	●粘着くん液剤	100倍	収穫前日まで	回数制限無
●モスピランジェット	50g/400? (床200m <sup>2</sup> ×高さ2m)	収穫前日まで	2回以内															
●トランスフォームフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内															
●スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫前日まで	2回以内															
●粘着くん液剤	100倍	収穫前日まで	回数制限無															

作物名	ピーマン																	
病虫害生理障害名	ハダニ類																	
ハダニ類																		
発生状況	中発生																	
発生時期	6月下旬～																	
発生状況・要因																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>8月から発生が継続しているほ場が見られている。</li> <li>葉表の黄変と葉裏の褐変症状が見られ、加害部位には微少なダニが見られる。</li> <li>密度が増加してくると細かな糸で巣を作り、薬剤が直接かかりづらくなるため防除が困難となる。</li> </ul>																		
対策																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>抵抗性が発達しやすいので各薬剤は年1回のみでの使用が望ましい。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>●ニッソラン水和剤</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●スターマイトフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>●コロマイト乳剤</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●モベントフロアブル (遅効的なので多発時には他剤と併用する)</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table>			●ニッソラン水和剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内	●スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	1回	●コロマイト乳剤	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	●モベントフロアブル (遅効的なので多発時には他剤と併用する)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
●ニッソラン水和剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内															
●スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	1回															
●コロマイト乳剤	1,000倍	収穫前日まで	2回以内															
●モベントフロアブル (遅効的なので多発時には他剤と併用する)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内															

作物名	ピーマン、ししとう、なんばん	
病虫害 生理障害名		
ヨトウガ・オオタバコガ		
発生状況		
少発生		
発生時期	オオタバコガ 若齢幼虫と葉の食害 (令和3年8月12日旭川市)	オオタバコガの幼虫 葉も食害するが果実に 食入する加害が多い
6月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>7月下旬からオオタバコガの幼虫が見られ、発生は減少しているが引き続き注意が必要である。</li> <li>ヨトウガの発生は確認できていないが、8月は第2世代成虫の発生時期に当たるためオオタバコガと合わせて注意する。</li> <li>いずれも成長すると食害量が増え、薬剤も効きづらくなる。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期に登録のある薬剤で防除を行う。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ブレバソフフロアブル5 ピーマン・ししとう・なんばん オオタバコガ 1,000~2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●ゼンターリ顆粒水和剤 ピーマン・ししとう・なんばん オオタバコガ 1,000倍 発生初期ただし収穫前日まで -</li> <li>●スピノエース顆粒水和剤 ピーマン オオタバコガ 2,500~5,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●コテツフロアブル ピーマン・ししとう・なんばん オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul>		

作物名	ピーマン	
病虫害 生理障害名		
菌核病		
発生状況		
発生に注意		
発生時期	莖葉での発生 発病部位から 上が萎れる	果実での発生 褐変し、水浸状 に腐敗する
-		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>高温期には発生はほぼ見られないが、20℃以下の低温と多湿により発生が助長されるので、今後の気温の低下や降雨の増加により発生の可能性があるので注意する。</li> <li>土壌中や被害残渣に形成された菌核が感染源となるので、春に発生が見られた場合は予防的な対策が必要となる。</li> <li>莖葉では発病部位から上が萎れて枯死、果実では軟化腐敗、幼果では落果が見られる。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>多湿が発生の原因となるので、ハウス内の換気に努める。</li> <li>莖葉が繁茂している場合は、懐枝を適宜除去して株の内側の日当たりや通気性の改善に努める。</li> <li>発生が見られる場合は、灰色かび病と合わせて薬剤防除を行う。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;菌核病の登録薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ロプラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ※</li> <li>●ロプラールくん煙剤 100g/300~400? (床150~200㎡×高さ2m) 収穫前日まで ※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;灰色かび病の登録薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●スミレックスくん煙顆粒 6g/100? 収穫前日まで 5回以内</li> </ul>		

- ◆防虫ネット・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。
- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に、化学合成農薬の使用をできるだけ減らし、クリーンな野菜生産を実践しましょう。  
気温が25~30℃以上となる高温時の散布作業は、作物に対する薬害の危険性が増大すること、散布者の健康被害が懸念されることからなるべく避けましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、令和3年8月31日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□  
【労働安全編】  
—想定される事故への備え—

取り組み

- ・危険を伴う作業は、十分に訓練された熟練者が行うようにしましょう。
- ・年齢を重ねるにつれ、動作が鈍くなることがあります。作業者の身体能力を確認し、作業者の配置を検討しましょう。
- ・体調不良や眠気を伴う薬を服用した者に対しては、作業制限を行いましょう。
- ・長時間作業により体力・集中力が低下しないよう、作業時間の上限設定や交代要員の確保、適宜交代、適宜休憩を実施しましょう。

服装・保護具の着用

- ・作業に応じた適切な服装・保護具を着用していないと、事故の原因となったり怪我や障害の程度が酷くなったりします。作業前に必要な装備を調べましょう。  
転倒、転落、落下物等に対する、ヘルメットの着用  
飛散物に対する、保護めがね等の着用  
機械の回転部にカバーができない場合における、袖口の締まった服装  
粉塵に対する防塵めがね、防塵マスク等の着用